

## 邑知平野南東縁の活構造と石動山地北西斜面の Mass-Movement

Active structure in the southeast margin of the Ohchi plain and massmovement on the northwest slope of the Sekidoh mountains

片川 秀基[1], 柴田 俊治[2], # 吉田 進[2], 浜田 昌明[3], 下川 浩一[4], 水野 清秀[4]

Hideki Katagawa[1], Toshiharu Shibata[2], # Susumu Yoshida[2], Masaaki Hamada[2], Koichi Shimokawa[3], Kiyohide Mizuno[4]

[1] 北陸電力・土木部兼原土部, [2] 北陸電力・原子力土木部, [3] 北陸電力原子力土木部, [4] 産総研 活断層研究センター

[1] Construction Dept & Nuclear Power Construction Dept, Hokuriku Electric Power Co., [2] Nuclear Power Civil Engineering Dept., Hokuriku Electric Power Co., [3] Active Fault Research Center, GSJ/AIST, [4] Active Fault Research Center, GSJ/AIST

北陸電力株式会社では、全国主要活断層調査の一環として、平成 13 年度、邑知平野南東縁及び石動山地北西斜面において、地形判読、地質踏査等を行った。本調査は、独立行政法人産業技術総合研究所活断層研究センターとの共同研究として実施しており、活断層研究センターでは反射法弾性波探査を実施した。

調査は、能登半島頸部の石動山地において、埴生累層堆積時以降の隆起運動が認められる飯山川～二宮川間（片川ほか、2002）で、邑知平野南東縁の活構造とされる地変と石動山地北西斜面の Mass-Movement との関係の有無に関する情報収集を目的に調査を実施した。調査は地形調査に従来の手法のほか片川・荒木（1999）の方法による地形鳥瞰図を採用し、地形調査結果を確認すべく地質踏査を実施した。

調査の結果、平野/山地境界にリニアメントや第四系の変形が認められる飯山川～羽咋市久江の 8 km の区間で、石動山地主稜線から平野/山地境界に「地すべり地形」を呈する馬蹄形～長楕円形のブロックを識別するとともに、このブロックが石動山地北西斜面の Mass-Movement にかかわっていることを示す各種地形・地質現象を見出した。

このブロックは幅 1 km×長さ 3 km 程度におよび、主稜線から平野に向かって馬蹄形急崖、凹地～平坦地（緩斜面）、uphill-facing scarp、幾分上に凸状を呈する中腹～末端の断面形、平野側に凸状を呈する平野/山地境界が位置する。規模と地形・地質構造からすべり面はかなりの深所に位置する可能性がある。こうしたブロックは 5 つが認められ、各ブロックは互いに隣接し、地形、地質分布にはブロック境界を挟んで変位の存在が認められる。筆者らはこれらを「Sackung」（Zischinsky, 1966；Hutchinson, 1985；Vernes et al, 1989）と呼び、より規模の小さい「地すべり」とを区分した。平野/山地境界のリニアメントは、平野側に凸状を呈するいくつかの小区間からなり、小区間のそれぞれは Sackung ブロックに対応しているように見える。

石動山地では山側隆起の断層の存在が推定されている。その断層の深部における位置は、重力基盤構造の解析（片川ほか、2002）や花崗岩の分布状況（片川ほか、投稿中）から石動山地北西斜面の中腹より幾分主稜線側に想定される。地表付近における断層の位置については、平野/山地境界を推定する説（太田ほか、1976）もあるが、不明な点もある。Sackung ブロックの形成、運動についてはこの断層の活動による石動山地の隆起に起因するものと考えられる。